

バッハ会長様

IOC 報道部長、マーク・アダムズ氏が貴職の代理としてお書き下さった 2014 年 5 月 28 日付けのお手紙を拝受しました。IOC が環境を尊重し、2020 年オリンピックの会場についても持続的環境をめざす姿勢であることをうれしく思います。オリンピックの立案から実施、更には終了後の長期的影響の全ての過程において、環境への配慮が重要であるとお言葉には心温まる思いがしました。

我々の懸念、すなわち、JSC によるオリンピック。ムーブメント・アジェンダ 21 の 3.1.6 項、3.2.2 項、3.2.3 項の違反につき、IOC が日本の準備委員会に連絡をお取りになり、お問い合わせ下さった由、また、準備委員会は、回答として、我々の懸念について認識しており、JSC が競技場のデザインにつき最適の解決案を検討中であると貴会に保証したと承りました。

残念ながら、準備委員会と JSC は貴会に対し嘘をついております。JSC は、広範な市民、建築家、都市計画家、歴史学者、メディア関係者の反対にもかかわらず、新競技場計画を強行しております。JSC は現競技場の取壊しの準備を整えて、状況は極めて切迫しております。アダムズ氏が上記手紙のなかで言及されたとおり、1964 年東京オリンピック競技場は日本のスポーツ史上、重要な位置を占める、象徴的存在です。

JSC はその競技場を壊して新設する決意を固めております。彼らはまだ 56 年しか経ってない競技場を改修、使用するようにとの私たちのたび重なる要望を無視してきました。2013 年ブリツカー賞受賞者の伊東豊雄氏はじめ多くの著名な建築家が JSC 案にかわる、低価格で環境負担の少ない代替案を提唱しても無視しております

5 月 28 日に JSC は新競技場の設計を発表し、これは当初案より縮小はしておりますが、それでも周囲の緑豊かな環境とはまったくあいられない巨大さです。そもそも、この場所は明治天皇と皇后の霊をまつる明治神宮の外苑として 1926 年に景観設計された歴史的地域で、域内の建物には高さ制限を課して、慎重に保全されてきました。緑豊かな貴重な地域で、東京市民にも外来者にとってもオアシスであります。計画された 70 メートルの新競技場とその関連施設は、このような景観と緑を抹殺するものです。

JSC の新競技場計画はオリンピック・ムーブメント・アジェンダ 21 の 3.2.3 項「競技施設」に明らかに違反しております。同項は、下記のとおりです。

3.2.2 競技施設

既存の競技施設をできる限り最大限活用し、これを良好な状態に保ち、安全性を高めながらこれを確立し、環境への影響を弱める努力をしなければならない。

既存施設を修理しても使用できない場合に限り、新しくスポーツ施設を建造することができる。

新規施設の建築および建築地所について、このアジェンダ 21 の 3.1.6 節を遵守しなければならない。

これら施設は、地域にある制限条項に従わなければならない、また、まわりの自然や景観を損なうことなく設計されなければならない。

J S Cが I O Cの上記規定を無視して、現競技場の改修計画を廃案とし、新競技場建設へと変更したことは I O Cの上記規定に違反します。2012年の国際コンペでは、この地域の歴史的、環境的価値を意図的に無視して、応募条件には地域条例上の制限をはずしております。

また、文科省、東京都、J O Cなど、他の関係機関も新競技場のデザインが環境に与える悪影響に関する情報を殆ど流さず、一般民衆の批判を逃れています。I O Cの条件に沿った、本計画の環境アセスメントは、まだ終了していません。

この様な状況のため、貴職から準備委員会と J O Cに対し、J S Cのアジェンダ 2 1 違反につき注意を促し、差し迫った現競技場取壊しの中止を命令して下さるよう、お願い申し上げます。また、東京市民は国立競技場問題の当事者であり、準備委員会、J O C、J S Cは私たちの意見を尊重するよう、注意してください。

オリンピック・ムーブメント・アジェンダ 2 1 の違反についての私たちの深刻な憂慮につき、ご理解を賜りますことに、有り難くお礼を申し上げます。2020年オリンピック・パラリンピックの最上の成功を心より願う者として、貴職のご支援をお願い申し上げます次第です。

敬具